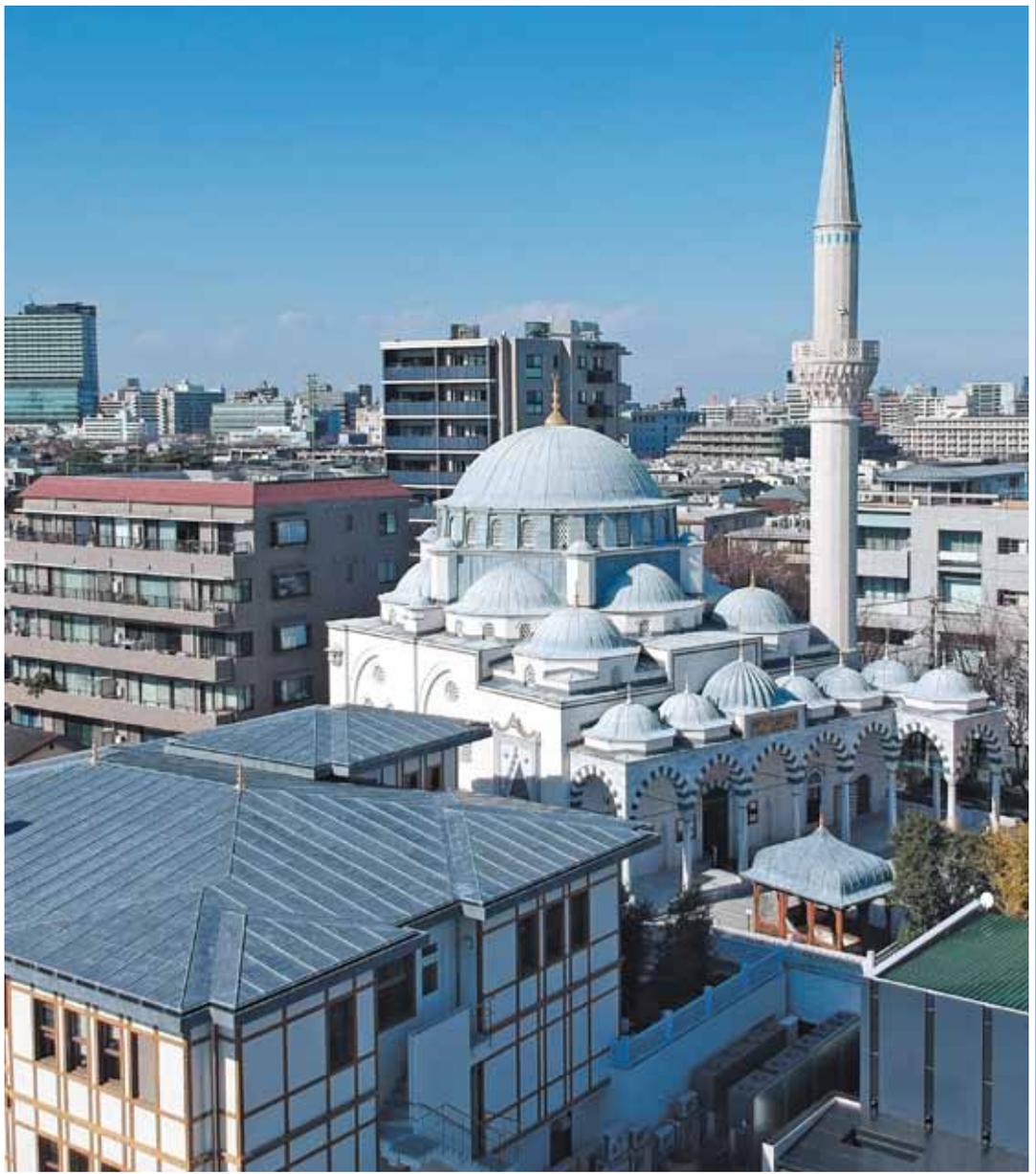


伝統と未来の交差点

東京ジャーミイ・ディヤール・トルコ文化センター



THE PRESIDENCY OF
RELIGIOUS AFFAIRS
トルコ共和国宗務庁



Tokyo Camii
東京ジャーミイ



Tokyo Camii Publishing
東京ジャーミイ出版会

謝 辞

東京ジャーミイ・ディヤナトトルコ文化センターは、東アジアにおいてイスラームとトルコの文化を象徴する場所です。2000年の開堂当初より、光栄なことに、日本の公式訪問者や多くの一般見学者の方々をはじめとして、諸外国の外交官の方々、日本ならびにトルコ共和国関係者の方々をお迎えすることができました。その機会に訪問者の方々は、トルコの宗教建築や様々な芸術作品をご覧になられたことと思います。

東京ジャーミイ・ディヤナトトルコ文化センターは、建築的にも、芸術的な観点からも他に類を見ない美しい建築物です。オスマン朝の様式によって建設された東京ジャーミイのミナレットやドーム、館内の芸術作品や礼拝の風景などは街に独特な彩(いろどり)を与えています。礼拝のために、あるいは芸術鑑賞のために、当館を訪れる方々の目的は多岐にわたります。そのため、当館ではムスリムの方はもちろん、ムスリムではない方にも参加いただける様々なイベントを開催しています。

また、当館は日本をはじめ各国から訪れるムスリムの方々が出会い、共同体としての絆を深める場ともなっており、特に金曜礼拝やイード礼拝では、溢れんばかりのムスリムが老若男女を問わず一堂に会します。新しく入信される方の入信式、結婚される方の婚儀や披露宴といった宗教儀式的他にも、クルアーンの朗読クラスや多彩な講座が開講されています。

東京ジャーミイは、イスラームの文化や思想に興味をお持ちの日本の方々が多く訪れる場所でもあります。個人でのご訪問以外にも、団体でイスラームを学びに来る方々も少なくありません。小学校から大学までの様々な教育機関、さらには社会人の方々もイスラームを学びに訪れます。

こうしたご来訪の方々に高く評価いただき、世界最大の閲覧数を誇る旅行レビューサイトでは、無料のおすすめ観光スポット第4位にも選ばれました。

東京ジャーミイ・ディヤナトトルコ文化センターは、イスラームの価値観と美学をもって、「多くの人々が集い、交流する場」という意味での「ジャーミイ」を体現しています。東京ジャーミイ・ディヤナトトルコ文化センターは、今後もトルコと日本の友好関係を深め、両国民の絆をより強いものとするために、日々 尽力してまいります。

2021年11月

宗教法人 日本・ディヤナト

ジャーミイにこめられた さまざまな深遠な意味*

ジャーミイは歴史

預言者ムハンマドがメッカからメディーナへ移り住んですぐ行ったのが礼拝所の建設でした。この最初の礼拝所は、ムスリム(イスラーム教徒)の社会生活や宗教生活の中心となる場となりました。その意味でジャーミイはイスラームの歴史と文明の出发点となりました。世界中の礼拝所はこの預言者モスクに倣ったものです。ムスリムは、どこにおいても生活していくためにまず礼拝所を建設しました。礼拝所はムスリムたちの歴史的な足跡なのです。ジャーミイは建築上の構造物を超えた伝統や人生観、そして世界観を表しています。ジャーミイは、歴史と同様に永続的かつ豊かな存在で過去と未来に開いている窓なのです。

ジャーミイは文明

文明とは、社会における真理の顕現です。礼拝所

はイスラーム社会の真理を体現しています。礼拝所は町の中心的存在です。人生や真理、そして文明は礼拝所のドームの下で一つになっています。ムスリムは礼拝所に入ると、人生の出発点は真理から生まれ、その真理は聖なるものから発生し、そして真理から離れてはいけないという責任を負っていることを再認識します。そうして礼拝所に生まれた真理は大空のもとで文明となっていくのです。

ジャーミイは芸術

文明の源である礼拝所は、同時に文明の大きな果実でもあります。すべての文明はその成立過程で文明の頂点の象徴として芸術を生み出しました。ジャーミイをイスラーム文明の作品としてとらえるなら、それは特別な意味を持っています。建築や装飾、さらにカリグラフィなどの芸術を総合したジャーミイは、同時に人間の美意識の表現の場でもあるので



*Hasan KARACA, "Cami", DİB.YAYINLARI

す。ジャーミイは一方で時間と地域の特徴を芸術的な言葉で語り、他方で聖なる源から生まれている芸術を再生するとともに次の世代に伝え、永続的なものにします。

ジャーミイは崇拜

ムスリムはアッラーの御前に立つとき、物事を心深く感じることができます。この心の安らぎは、ミフラーブ（礼拝の方向を示す壁の窪み）に象徴されています。礼拝する人はミフラーブに近づけば近づくほど、より多くの報奨を得ることができます。したがって礼拝に立つ者を代表するイマーム（礼拝の指導者）は、ミフラーブに相対して礼拝を行います。礼拝所に足を踏み入れたときから、ムスリムのすべての行いは崇拜行為となります。なぜならジャーミイの最も大きな役割は崇拜行為の場の提供にあるからです。そこへは身も心も清浄にして入ります。そして、そこで大きな心の満足と安らぎを得るのです。一度ジャーミイに入ると、もうそこから出たくないという気持ちにさせられます。

ジャーミイは平等

ムスリムは礼拝所に入ると、その人が持つすべての社会的立場から離れます。人はその名声、名誉、職業、所属団体などすべての立場から離れ、一人の人間、一人のしもべとして神の前に立つのです。ここでは俗世間から持ち込んだものすべてがその意味

を失うのです。さまざまな違いを超えて、人はすべて平等であること、そして永遠のものとは汚れなき心と善行だけであるということを認識します。

ジャーミイは共存

礼拝所で一列に並び立つ人々は、共に人生の重み、喜び、労苦などを分かち合うことを学びます。一人が列から外れると全体が崩れてしまいます。それは人々に、日々の生活においてもお互いに見守っていなければならないということを教えています。ムアズイン（礼拝の呼びかけをする人）がミナレットから、アッラーの唯一性を説いているアザーン（礼拝への呼びかけ）を行うと、ムスリムたちの心は喜びに打ち震え、どのようなことをしていても直ちに止め、唯一の神アッラーに立ち向かいます。もらうことよりも与えること、手元に残すよりも分かち合うこと、ためこむよりも施すことが美徳であることを再認識します。ジャーミイはこの世のすべてのものは分かち合うことによって増えていくということを、人々の心に強く刻み込みます。

ジャーミイは対話

ジャーミイの扉はすべての人々に開かれています。同様にムスリムの心もすべての人々に開かれています。人は礼拝所に入ると創造主の前に立つと同時に他の人々との関係も培います。この二つの結びつきは自然に愛情と対話の状態を生み出します。この対話は舌（言葉）ではなく心で行います。

ジャーミイは知識

ムスリムは礼拝所に入ると心を精神世界に向け、頭を知識に向けます。なぜなら礼拝所は歴史的に、常に知識の場となってきたからです。礼拝所のミンバル（説教壇）から語られるすべての言葉はムスリムの知的世界を広げます。そこから語られるすべての言葉は再発見に値するものばかりです。ジャーミイは知識の源です。

なぜならジャーミイを経た知識は真理の香りをまとっているからです。真理は礼拝所の中で語られます。したがって礼拝所には礼儀正しく入らねばなりません。ジャーミイは礼節と美徳を極めた場所だからです。したがって、礼拝所に一度入った者は、礼儀なくして知識なく、真理なくして知恵もないということを理解します。

ジャーミイは愛情

真の知識は愛情から生まれます。なぜなら愛情はお互いを近づけるからです。ムスリムは愛情を持ってジャーミイへ入り、礼拝所を愛します。ジャーミイもムスリムを愛します。その両者が一つになると愛情はより完璧なものとなります。ジャーミイもムスリムも自らの愛情を他の人と分かち合います。したがって礼拝所はどこにあっても愛情ある場となります。ジャーミイは愛情を持って知識を分かち合うことを教えます。ジャーミイは、礼拝所に入ってくる人々に愛情を配り、崇拜する人々に愛情を与え、嘆き悲しんでいる人々に愛情を持って接し、笑顔の人々から愛情を奪うことはありません。ジャーミイは、礼拝所に愛情を抱いてくる人々に、本当に愛すべき存在は誰であるかを教え、真の愛情を味わわせます。

ジャーミイは神託

ジャーミイは、愛情や知識を教えることによって神託する心も教えたこととなります。文明や美徳、そして知識の源泉が礼拝所であることを教えます。同時に避難所でもあることを認識させます。このようにして常にムスリムは礼拝所の影響のもとで過ごします。ムスリムはそこがアッラーの家であること、そして真の支配者が誰であるかを理解します。したがって、ムスリムの代理者は創造主アッラーとなるのです。彼へ避難し、持てる物と持たざる物すべて、彼から賜ったものであることを理解します。人はどこにいてもジャーミイの影響のもとにあり、恐ろしさや悲しさも消えてしまいます。また誰であれどん



な時でも耳に入る言葉は安寧と平安なのです。

ジャーミイは清浄

ムスリムは心と頭をよく整理してジャーミイへと入ります。身も心も清浄にして向かいます。ジャーミイはムスリムにその扉を開き、神の前にいるという精神的な満足を与えます。身も心も清めた者だけがアッラーの前に立つことができます。人はジャーミイに入るとまずその罪が消え去り、心が安らぎ、不道徳な行為から救われ、やがて精神的に充足し、神のご満悦にあずかります。このような状態で礼拝に立ちます。

ジャーミイは避難所

ムスリムは、身のまわりに避難する場所がなくなり、心の支えを求めているとき、礼拝所という慈しみの手が開いていることを知っています。ジャーミイは、慈悲深い避難所です。他のすべての避難所の慈悲の心はジャーミイから出ています。礼拝所に避難しない人々に対してもジャーミイは恵みを与えてくれます。ムスリムは手元にあるすべてのものの源はジャーミイにあると認識しています。ジャーミイは避難する者にとって安らぎの場であり、避難しない者にとっても希望なのです。

ジャーミイは学び

ジャーミイはムスリムに学ぶことを教えます。人に人生の叡智や物事の真実を教えます。真理を人に授けます。ムスリムは礼拝所に入るたびに新しいことを学び、それを身に付けどこでも礼拝所の中のように過ごします。ジャーミイのような目で眺め、ジャーミイのように物事を感じ、ジャーミイのように物事にかかわるのです。

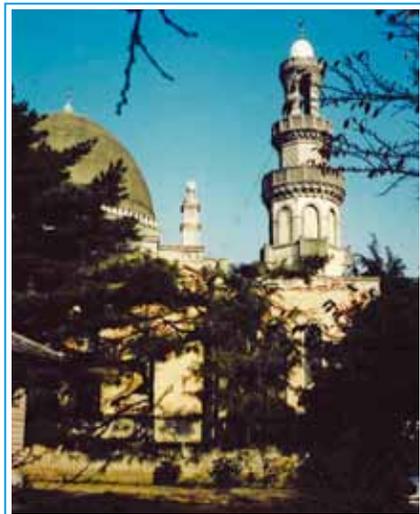


東京ジャーミイの歴史

日本のムスリムの心の拠り所として

東京ジャーミイの歴史は戦前にまで遡ります。ロシア革命を逃れ、日本へ避難して来たカザン州のタートル人たちの礼拝所を求める動きが、日本政府の協力によって結実したのが1938年（昭和13年）に竣工する東京回教礼拝堂です。

この礼拝所は、その後、半世紀以上にわたり在日のムスリムたちの心の拠り所となってきましたが、老朽化により1986年に取り壊され、2000年に東京ジャーミイトルコ文化センターとして生まれ変わり、現在に至っています。



1938年（昭和13年）に完成した東京回教礼拝堂

1917年（大正6年）、ロシアで社会主義革命が起き、同国内に居住していた多くのムスリムたちは迫害を受け、生命の危機を逃れるために海外へと避難せざるを得なくなりました。その中のカザン州のタートル人たちは中央アジアを経由して満州へと移動、さらに韓国や日本へと安住の地を求めて移住して来たのです。

東京や神戸に定住したタートル人たちは気候の温暖な日本の生活にすぐなじむことができました。1922年（大正11年）の関東大震災の発生直後、ア



東京回教礼拝堂の入口で記念撮影する人々

メリカ政府が東京在住の外国人を救助するため横浜港に特別船を用意したにもかかわらず、タートル人たちはその申し出を断り日本を離れることはありませんでした。同年、彼らはアブドゥルハイ・クルバンアリーを代表にマハッレ・イスラミエ協会を設立し、のちに来日するアブデュルレシト・



東京回教礼拝堂で礼拝する人々

イブラヒムらと共に日本政府との友好を深めていったのです。

東京で新たな生活を始めたトルコ人たちの悩みは子供たちの教育にありました。1928年（昭和3年）、彼らは日本政府から学校設立の許可を得た後、メクテビ・イスラミエと命名した学校を開設しました。さらに日本政府の協力により東京の渋谷区に土地を購入し、1935年（昭和10年）、その地に学校を移転、1938年（昭和13年）には隣接した場所に彼らの悲

願であった礼拝堂（東京回教礼拝堂）を建設することができたのです。

以来、同礼拝堂は長きにわたって内外のムスリムの礼拝場としての役割を担ってきたのですが、1986年（昭和61年）、建物の老朽化に伴い取り壊されることとなりました。そして、その跡地はマハッレ・イスラミエ協会に代わり創設された東京トルコ人協会によって、「ジャーミイ再建」を条件に、トルコ共和国に寄付されることになったのです。

1997年（平成9年）、トルコ共和国宗務庁のもとに「東京ジャーミイ建設基金」が設立され、トル

ディヤーナトルコ文化センターの歴史

ロシア革命を逃れ、日本にまで移住してきたカザン・タートル人たちにより、1922年（大正11年）、



最初のクルアーン印刷に使用された鉛版

東京にマハッレ・イスラミエ協会が設立されました。カザン・タートル人は、宗教的・民族的アイデンティティを保つためにも自分たちの信仰や文化を次世代に継承してゆく必要があると考え、1927年（昭和2年）、渋谷区富ヶ谷に日本家屋を借りメクテビ・イスラミエと命名した学校を開設しました。この学校は日本における最初のイスラーム教育施設です。その後、タートルのコミュニティによる寄付金や当時の日本の企業・団体の協力もあり、渋谷区大山町に土地を購入し、1935年（昭和10年）、その地に学校を移転しました。

学校で使用する教材を印刷するために、建物の一室が印刷室として使用されていましたが、1928年（昭和3年）以降、いわゆる文字改革が行われていたトルコから、イスタンブールの新聞社で使用されていたアラビア語の印刷機を譲り受けました。

こうして東京回教印刷所の前身が発足しました。1934年（昭和9年）、この印刷所でアラビア語の聖典クルアーンが印刷されました。これは日本を含む東アジア地域で印刷されたおそらく最初のクルアーンであり、現在も東京ジャーミイの1階に展示されています。印刷されたクルアーンは近隣の諸国にも送られました。

1938年（昭和13年）、学校に隣接して東京回教礼拝堂が開堂しました。2017年（平成29年）、同じ敷地内に建てられていた学校は老朽化に伴い取り壊され、2018年（平成30年）7月20日、新たにディヤーナトルコ文化センターが完成し、宗教法人 日本・ディヤーナトルコ文化センターがその管理を受け継ぐこととなりました。今日、ディヤーナトルコ文化センターは多くの方々のご来訪をお迎えしています。



日本で印刷された最初のクルアーン



ディヤーナトルコ文化センター入口

東京ジャーミイの特徴 オスマン様式の伝統を現代に

東京ジャーミイ・ディヤナトトルコ文化センターは、日本で最大級の礼拝所です。その伝統的なオスマン様式の建物は、近代的な新宿の高層ビル群を借景に異彩を放っています。毎週金曜日の集団礼拝の日には内外の多くのムスリムたちが礼拝に訪れ、アッラーに敬虔な祈りを捧げています。

伝統と最新技術の融合

東京ジャーミイ・ディヤナトトルコ文化センターは、イスラム文明における宗教建築の頂点を極めた伝統的なオスマン様式の建築物です。外見적으로는オスマン様式のデザインを踏襲しながら、構造上は随所に最新技術を取り入れ、その存在はまさに伝統と現代、

そして未来を一つにまとめた作品となっています。

この建物の新しさは、伝統的建築様式においてまだ完成の域に達していなかった内部空間の構成を、一つの大ドームを中心に六つの半ドームを配することによって統一的な天井システムとした点にあります。言い換えるなら、伝統的建築様式の諸条件を細部にいたるまで忠実に守りながら、単なる模倣に終るのではなく、独自の設計による斬新な様式を生み出しているのです。



入口ホールにはトルコ・イスラムの芸術作品が展示されている

芸術作品としての装飾

東京ジャーミイ・ディヤナトトルコ文化センターの外装および内装には、カリグラフィをはじめとするトルコ・イスラム芸術を代表するさまざまな工芸作品がちりばめられ、全体空間の中で見事なハーモニーを醸し出しています。ことに2階の礼拝空間に施された繊細で優美な装飾の数々は息をのむほどの美しさです。

また、そうした東京ジャーミイの装飾は文化的・芸術的価値を持つと同時に宗教的な意味も持っています。たとえば建物の内外にはめこまれているカリグラフィは、クルアーンの一節や預言者ムハンマドの言葉であり、天蓋を表す大ドームは半ドームや内壁とともに宇宙を表現しているのです。

「アッラーはあなたがたのために大地を安息所とされ、大空を天蓋となされ、またあなたがたに見事な姿を授けて、形作り、色々な良い御恵みを支給された方である（クルアーン第40章64節）」。

最大2000人を収容する礼拝場

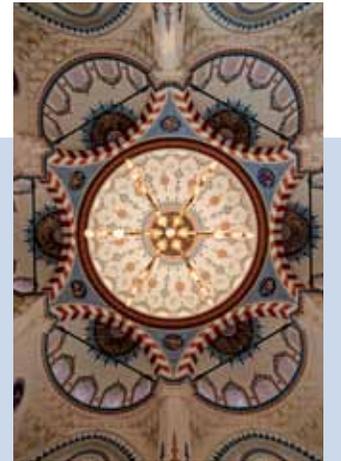
東京ジャーミイ・ディヤナトトルコ文化センターの敷地面積は734㎡、建物の延べ床面積は1693㎡。鉄筋コンクリートづくりの建物は耐震建築で大ドームや半ドームは、内部鋳型を用いずにつくられ、

内壁や外壁の大理石は特殊な技術を駆使して金具のみで取り付けられています。また2階の礼拝空間の天井には、数千年前から使われている技術「ドーム内空室」が音響装置として取り付けられています。

東京ジャーミイ・ディヤナトトルコ文化センター1階の入口ホールにはトルコ・イスラム芸術の作品展示場が設けられ、伝統的なトルコ民家の応接間が再現されています。

1階右手奥には図書コーナーが併設された多目的ホールがあり、そこではイスラムについての講演会や各種パーティー、展示会やイベントなどが一年を通して行われています。礼拝所としても、2階の礼拝所には中2階

を含め約630名が収容でき、イード（お祭り）のときにはテラスや1階の多目的ホールも礼拝所として使われ、すべてを合わせると約2000名が収容できます。



六基の半ドームで支えられた大ドーム



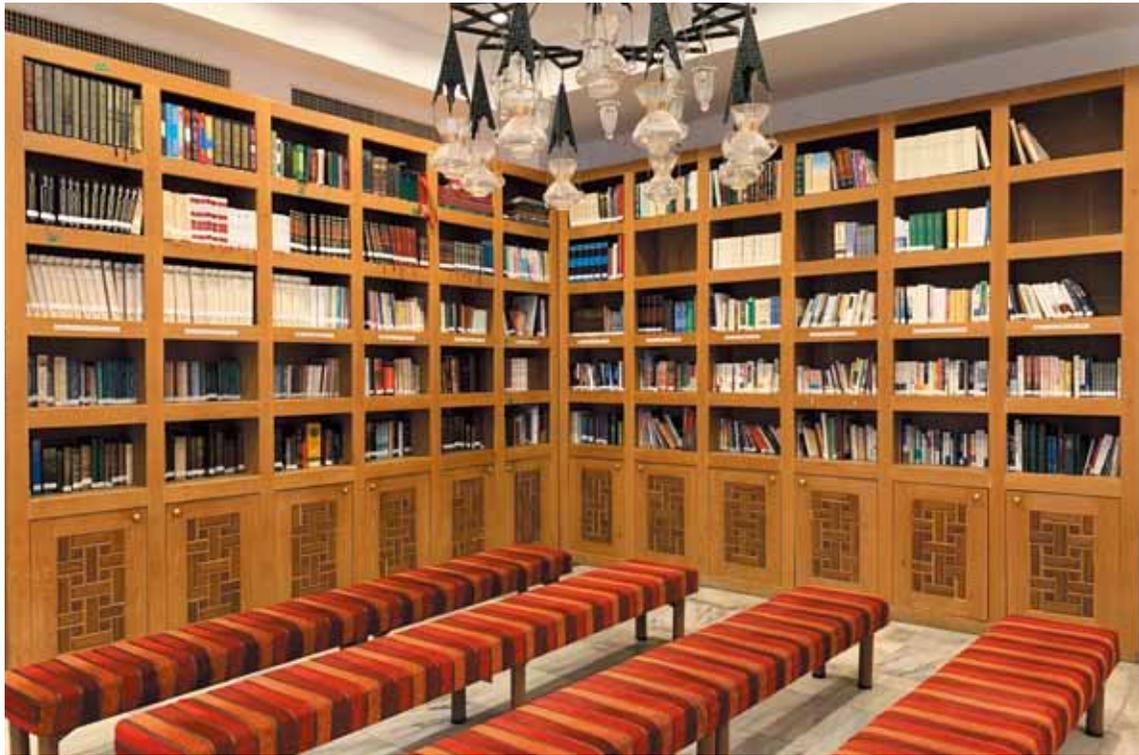
伝統的なトルコ民家の応接間



さまざまな講演やイベントが行われる多目的ホール

入口の書店

東京ジャーミイ1階のエントランスには書店があり、選りすぐりの日本語を中心に英語、トルコ語、アラビア語等の書籍を取り扱っています。大人だけでなく、子供も楽しめるよう絵本も数多くとり揃えています。宗教や文化に関する知識を深めるのにオススメです。



豊富な図書

多目的ホールに併設されている図書コーナーには各国語の蔵書があり、イスラームに関心のある一般の方や、論文・レポートを書く学生にとっては最適の場所になっています。

模型の展示

その他、ディヤナーナトルコ文化センター1階には、東京ジャーミイの前身である東京回教礼拝堂（右）ならびに東京回教学校（左）の模型が展示されており、当時のモスクと学校の位置関係を知ることができます。



ディヤナーナトルコ文化センターについて

2000年の開館以来、東京ジャーミイには、イスラームの文化や芸術を知ろうと、日本のみならず多くの国の方々にご来訪いただきました。来訪者の方々の期待に沿えるよう、2018年にはディヤナーナトルコ文化センターが建設され、新たな施設も設けられました。



手前の建物は新設されたディヤナーナトルコ文化センター。東京ジャーミイとディヤナーナトルコ文化センターをつなぐ1階の渡り廊下に面して、ハラールマーケットがあります。日本ではハラール食品を入手することが困難なため、多くのムスリムの方々にご利用いただいています。また日本の方々にとってもトルコやマレーシア、インドネシアなど、多彩な食文化に触れることのできる場所となっています。



品揃え豊富なハラールマーケット

マーケットの向かい側には広々としたキッチンがあり、毎週金曜日の集団礼拝後の軽食や、ラマダーン月の断食明けの夕食などがこのキッチンで調理されています。その他にも、各種のイベントにあわせて各国の料理やお菓子作りに使用されています。

地下1階には、ターコイズブルーを基調としたデザインの講堂（130名収容）があります。最新の音響設備・照明機械を備えるこの講堂では、演奏会、通年の授業や講義、セミナーなどが行われています。

2階・3階には教室、事務所、応接間などが設置されています。3階に位置する応接間はオスマン様式のデザインで統一されており、ディーワーンと呼ばれる肘掛けのない長椅子が並べられています。この応接間では、会議や少人数での授業などが行われています。

この他にも、3階には当施設の前身である東京回教学校ならびに礼拝堂の建設に携わった人物の名で呼ばれる事務室があります。「アブデュルレシト・イブラヒム」はタートル関連の図書資料室として使用されています。「エンヴェル・アパナイ」はキッズクラスとして子供たちが使いやすいようにデザインされており、



また「アブドゥルハイ・クルバンアリー」は主に小学生が宗教を学ぶ他、アラビア語書道の教室として使用されています。また「テミムダル・ムヒト」は東京ジャーミイ出版部の事務所として使用されています。

新たに建設されたディヤナーナトルコ文化センターは、各種の講座やイベントなど、様々な活動を通して人々が出会い、互いに知り合う場です。イスラームという宗教は、知識の探求を推奨しています。当センターでの宗教・文化活動により、世界じゅうの人々が繋がっていくことでしょう。



エルトゥールル講堂

東京ジャーミイ・ディヤナトトルコ 文化センターの活動

イスラーム・トルコ文化の交流・発信の場として

東京の都心に位置する東京ジャーミイ・ディヤナトトルコ文化センターは、交通の便もよく多くの人々が交流し発信する拠点となっています。ことに1階の多目的ホールではイスラームに関するさまざま

な講演会、断食明けの夕食会や展覧会などのイベント、チャリティー・バザーや結婚式などが、一年を通して行われています。

週末には子ども教室やクルアーン教室、またムスリムの若年層向け勉強会を兼ねた交流会「ヤングムスリム倶楽部」などが行われ、様々な国籍や幅広い年齢層の方々が参加しています。

結婚式



講演会



チャリティー・バザー



断食明けの夕食会



世界平和を祈る集い



断食明けの夕食会



クルアーンを学ぶ



巡礼についての講演会



お茶とケーキの会



ジャーミイの見学ツアー



お花のワークショップ



ヤングムスリム倶楽部



絨毯の展示会



チャリティー・バザー



ヒジャブワークショップ



イード(お祭り)





金曜礼拝に集う人々

毎週金曜日、ムスリムの人々は集団礼拝のために東京ジャーミイに集い、アッラーに祈りを捧げます。そして礼拝後、人々はお互いに旧交をあたため、近況を報告し合います。



イマームによる金曜礼拝の説教



ミナレットから見た東京ジャーミイの全景



イマームの先導のもと、聖地マッカのカアバ神殿に向かってアッラーに礼拝を捧げる人々

東京ジャーミイの2階礼拝堂に入ると、大小ドームが形づく空間の大きさ、壁に施されたカリグラフィの流麗さ、窓にはめこまれたステンドグラスの色どりや繊細なアラベスク模様の美しさに圧倒される

東京ジャーミイのイスラーム芸術

東京ジャーミイ・ディヤナト トルコ文化センターはオスマン様式による建築物で、多くの芸術作品を見ることができます。トルコ・イスラーム文化の概念と美的感覚を併せ持つトルコ・イスラーム芸術には人とアッラー（神）との繋がりを象徴するメッセージが込められています。すべての生き物には等しく終わりがあり、アッラー（神）のみが生まれもせず、

永遠に死にもしないのです。芸術家とは“芸術を生み出す人”ではなく、アッラー（神）がこの世界に創った秩序を見つけ出し、自分の作品に反映させる人のことです。トルコ・イスラーム芸術には必ずこの世界に在るものから神に向かって伸びる軌跡があります。すべての芸術はアッラー（神）への愛情表現なのです。



アラビア書道

美しい文字を書く芸術であるヒユヌヌ・ハット（アラビア書道）は、聖典クルアーンをより美しく書きたいという敬神の念から生まれました。ハットとはアラビア文字の書体をデザイン化しながら書くことであり、アラビア文字をデザイン化しながら書く人はハッタートゥと呼ばれます。ハットに情熱を注いだハッタートゥ達の努力により、様々な書体が生まれ、今日まで受け継がれてきました。東京ジャーミイでは、スルス体、ナスフ体、タアリーク体など、様々な書体を見ることができます。

カレム・イシ/カレムキャーリ

オスマン建築のジャーミイには建物の内側を装飾するための様々な模様が使われます。ジャーミイのドームや、アーチ、壁などの装飾をカレム・イシ、またはカレムキャーリと呼びます。その他のトルコ・イスラーム芸術のように、カレム・イシでも偶像は描かれず、幾何学模様や植物模様などがあしらわれます。カレム・イシを生業にする人をカレムキャーリと言います。彼らは何百年もの間モルタル、レンガ、皮、石などにカレム・イシを描いてきました。



チニ（タイル）

チニ（タイル）はセラミックを素材とした装飾です。粘土や珪石を原料とするセラミックに下地を塗り、様々な色や模様で絵付けした後、窯で焼き釉薬をかけます。大きな一枚のパネルに描いたり、小さいパーツを絵付けした後にそれぞれを組み立てて一つの作品にしたりします。壁の装飾に使うタイルは通常、正方形または六角形の形状の物を繋げて作ります。皿やカップなどの食器類は一つのパーツで作ります。



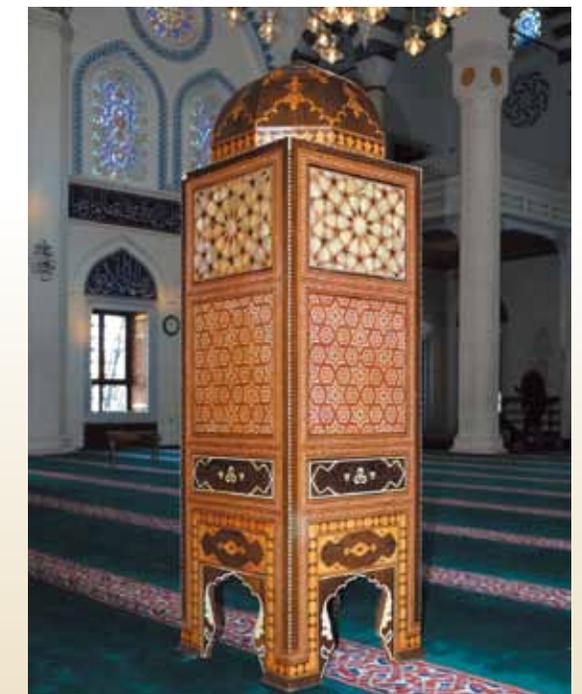
クンデキャーリ（寄木細工）

幾何学模様の形状に切断された小さい木片を寄せ集めて作品を作る芸術です。しかしその木片を接着するときに釘や糊は一切使用しません。そのため、数百年経っても接合部がさび付かず、壊れません。湿度や温度の上昇による膨張も防げます。耐久性が高く加工がしやすいクルミ、ドングリ、ツゲ、黒檀、薔薇の木などが用いられます。



螺鈿細工

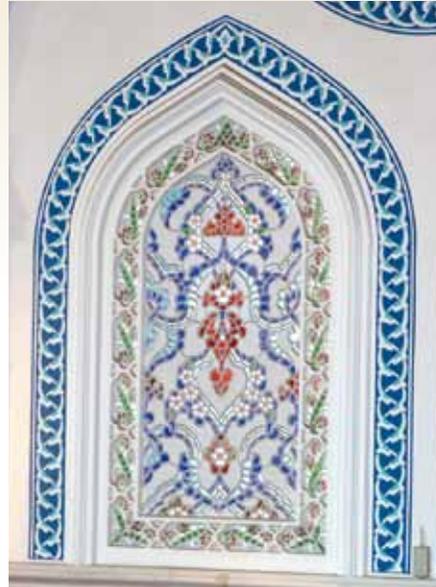
ムラサキガイ、牡蠣、巻貝などの貝殻の内側に付いている真珠層と呼ばれる光沢物質を使用します。真珠と同じ物質であるため、別名真珠母とも呼ばれています。螺鈿細工は薄く削った木材に、厚みをそろえた真珠層をはめ込んで作ります。東京ジャーミイの調度品には、寄木細工と螺鈿細工が一緒に使われています。





レウゼン(ステンドグラス)

石膏の窓枠に着色したガラスをはめこみ模様を描く技術です。窓の内側と外側にはそれぞれ異なった模様を使用されます。光の反射具合に合わせて、ガラスの大小や色の有無が決められます。



石と大理石の装飾

ジャーミイの主な建築材料である石と大理石の装飾は、オスマン朝時代に芸術として扱われるようになりました。多様な彫刻技術を駆使し、石や大理石を形作ります。特に、東京ジャーミイのミフラーブやミンバル、外壁に取り付けてある「鳥の宮殿(巣箱)」の彫刻は必見です。「鳥の宮殿」はイスラームの教えである動物への慈悲の表われであり、オスマン建築やトルコ・イスラーム芸術の中に頻繁に見ることができます。

テズヒブ

テズヒブは「黄金の飾り」を意味し、ページの縁を細長い模様で飾る手法です。特に金色が多用され、価値のある大切なもののみ施される手法のため、歴史上最も優れたテズヒブは聖典クルアーンを通して目にすることができます。なかでも、第1章と第2章の最初の5節までが書かれたページは入念に描かれます。他にもアラビア書道を録取る時にも使用されます。

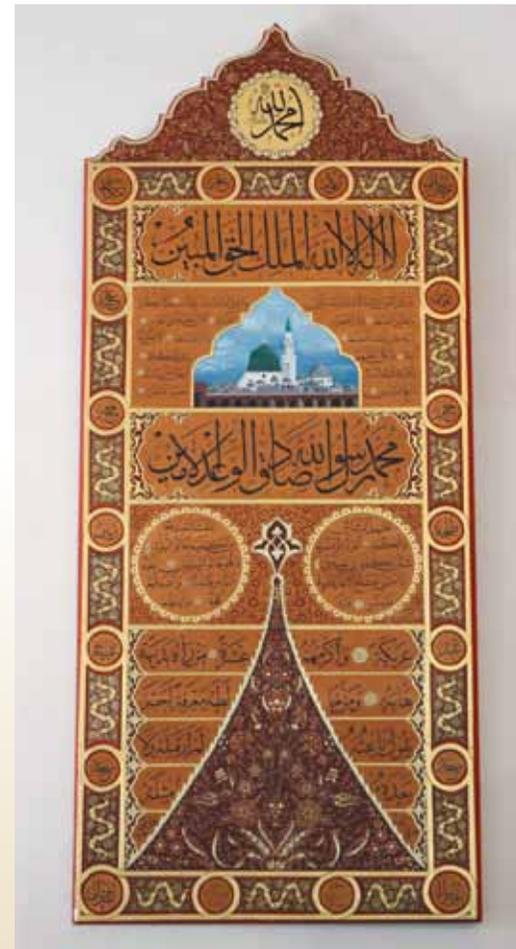


ヒルイエ・シェリフ

複数のトルコ・イスラーム芸術を組み合わせることで完成される作品で、通常は預言者ムハンマドの外見をつづる芸術を指します。トルコ・イスラーム芸術において預言者ムハンマドの顔は描かれないため、たとえシルエットであっても、その容姿が描かれている作品はありません。預言者ムハンマドはその容姿を遥かにしのぐ性格と、計り知れない美徳を持ち合わせていたと伝えられています。そのため、この装飾においてはマディーナにある彼の墓廟が預言者ムハンマドの象徴として使われます。ヒルイエは、預言者ムハンマドに対する親愛と尊敬の念を表現しているのです。

エブル

エブルとは、トルコ語で「雲」を意味します。水の上に絵具を垂らした時、雲のような形に広がることからエブルと呼ばれるようになりました。現代ではプレートを使用しますが、ボートに特殊な水を張って絵具を垂らし、様々な模様を描いたのがエブルの始まりです。何層にも絵具を垂らし、最後に特殊な紙をその上に敷きます。水の上に広がった模様が紙に写り、世界にひとつの作品が完成します。エブルは書籍の装丁や壁掛けとして使用されます。



東京ジャーミイの カリグラフィの意味



イスラームの 普遍的メッセージ

東京ジャーミイの1階玄関の扉、多目的ホール壁の壁、トルコ民家の応接間の壁、2階礼拝堂入口の扉、礼拝堂内部の壁や天井には、クルアーンやハディースからとったさまざまなカリグラフィの装飾が施されています。流麗なアラビア語書体と簡潔な文章にこめられた神のメッセージや預言者ムハンマドの言葉を味わってください。

1階正面玄関の カリグラフィ



1 東京ジャーミイは神の館、この地にあまねく永遠の聖なる光を。



2 崇高なるアッラーはおおせられた、「また水によって生あるものすべてを造った(クルアーン 21章30節)」。



3 あなたの園へ入るとき、どうして言わないのか、



4 「アッラーの御心のままに。アッラーによる他は、どのような力もない(クルアーン 18章39節)」と。

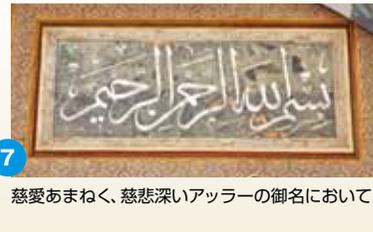
2階テラス礼拝堂入口周辺のカリグラフィ



9 時間内に礼拝に急ぎなさい。



12 死を迎える前に急ぎ悔い改めなさい。



7 慈愛あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。



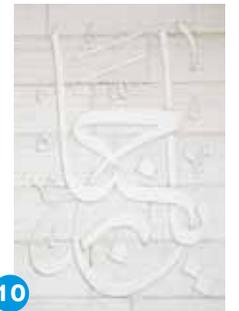
8 「ここへ入りなさい、平安に、つつがなくやすらかに(クルアーン 15章46節)」。



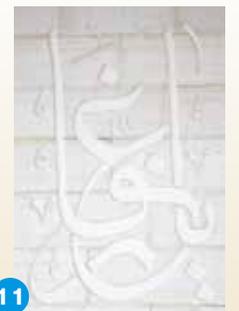
5 「信仰者には、決められた時刻に礼拝することが定められている(クルアーン 4章103節)」。



6 「本当に礼拝堂とはアッラーのもの。それゆえアッラーと共に他の何ものにも祈ってはならない(クルアーン 72章18節)」。



10 制圧者よ(その意志をすべてのものに強制する力を持つ者)



11 許す者よ(人間の罪を数限りなく許す者)

2階礼拝堂内部（正面と左右）のカリグラフィ

24 アッラーを称え、感謝する。アッラーの他に神はなく、アッラーは偉大なり。アッラー以外にいかなる力もなし。



1 崇高なるアッラーはおおせられた、「あらゆるものは滅びる、ただこの御方の御顔を除いては。判断はこの御方のもの。そしてあなたがたは、この御方に帰されるもの（クルアーン28章88節）」。



2 「あなたがたがどちらを向こうと、そこにアッラーの御顔がある（クルアーン2章115節）」。



3 慈愛あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。

4 アッラー

5 アッラーの他に神はなく、ムハンマドはアッラーの使徒である。



7 アッラーの他に神はなく、ムハンマドはアッラーの使徒である。



8 一番よい言葉はアッラーを讃える言葉であり、一番よい祈りは「アルハムドリッラーヒ」（神に称えあれ）である。



9 主よ、わたしが求めているのはあなたであり、あなたの御許しである。



10 ゆりかごから墓場まで知識を求め続けなさい。

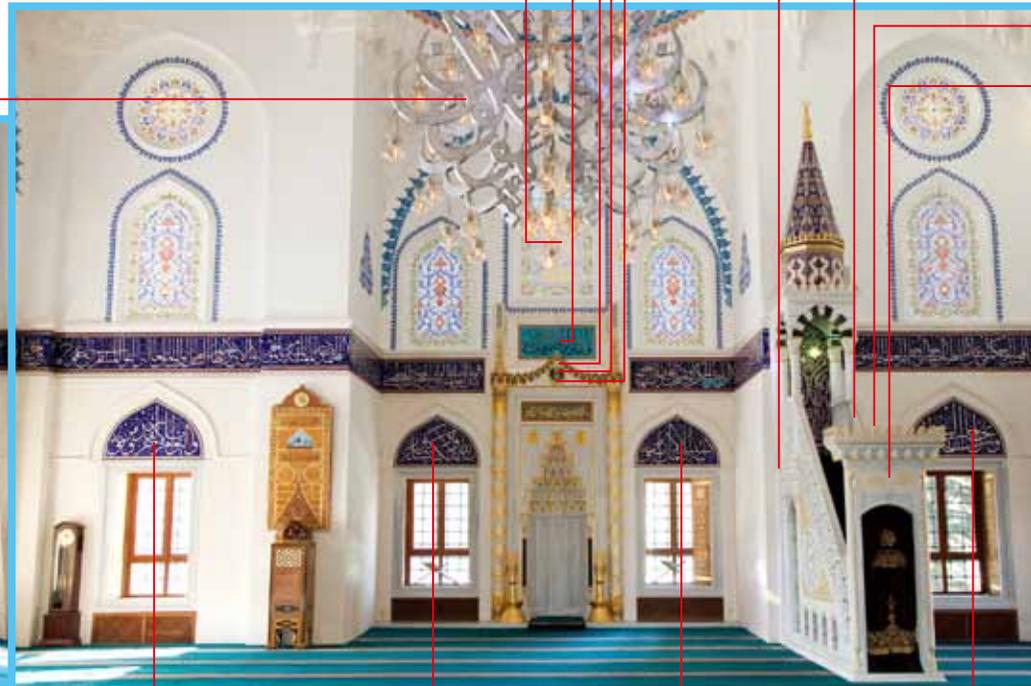
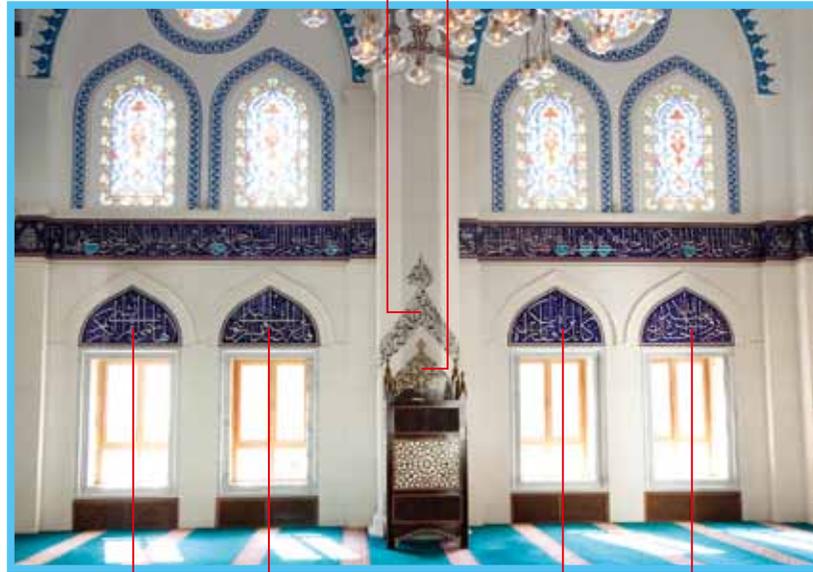


11 無から宇宙を創造し、その完璧な調和と秩序を存続させる力の所有者である唯一の神、アッラーの特徴を表した99の美しい御名が記されている。



25 死は人を教え諭す。

6 かの御方が何ごとかを意図するとき、それにただ「在れ」と命じるだけでそれは在る。（クルアーン36章82節）



22 神はあなたをご覧になっているのだから。



20 善いことも、悪いこともアッラーから授かるものと信じること。イフサーン（善徳）とは崇拝すること、



18 アッラー、天使、諸啓典、預言者たち、



16 可能であればカアバ神殿に巡礼をすること。



14 預言者ムハンマドはアッラーの使徒である、と証言すること。



12 預言者ムハンマドは語った。イスラムとは、



23 クライシュ族の寛大なハーシム家出身のアッラーの使徒は、正しくそう語った。



21 神とまみえているかのように。あなたには見えなくとも、



19 審判の日、そして天命、



17 イーマーン（信仰）とは（以下を）信じること、

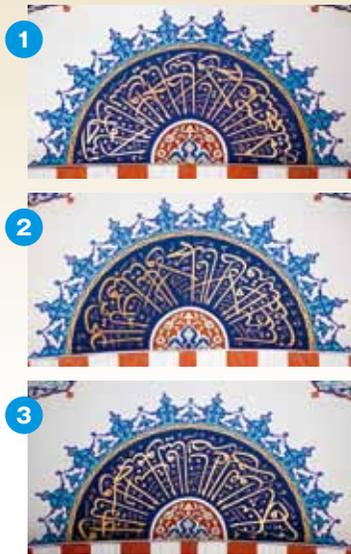


15 サラート（礼拝）をすること、ザカート（喜捨）を支払うこと、ラマダーン月に齋戒をすること。



13 アッラーの他に神はなし、と証言すること。

2階礼拝堂天井ドームのカリグラフィ



「アッラーはどの者にも、その能力以上のことを負わせない。自分の得たもので自分を益し、自分の得たもので自分を害する。『主よ。私たちが忘れたとしても、過ちを犯したとしても、私たちが責めないでください。主よ。私たちが以前の者たちにあなたが背負わせたような重荷を、私たちに背負わせないでください。主よ。私たちが背負えないような重荷を、私たちに背負わせないでください。私たちを[罪から]清め、私たちがを赦し、私たちがを憐れんでください。私たちの守護者はあなたです。[真理を]拒む民に対し、私たちがを助けてください』(クルアーン 2章286節)」。



「主よ。本当に私たちは、信仰へと呼び招く者が『あなたがたの主を信じよ』と呼ぶのを聞いて、信じるようになりました。主よ、それゆえ私たちの罪を赦してください。私たちの悪い行いを咎めないでください。そして私たちが、徳ある者と共に召し寄せてください。主よ。あなたの使徒たちによってあなたが約束したものを、私たちに与えてください。そして復活の日、私たちに恥辱を負わせないでください。本当に、あなたが約束を破ることはありません(クルアーン 3章193～194節)」。



「言いなさい。『アッラー、唯一の御方。アッラー、永遠にして絶対の御方。産みもせず、産まれもせず、何ひとつ並ぶものなき御方』(クルアーン 112章1～4節)」。



8 アッラー

9 ムハンマド

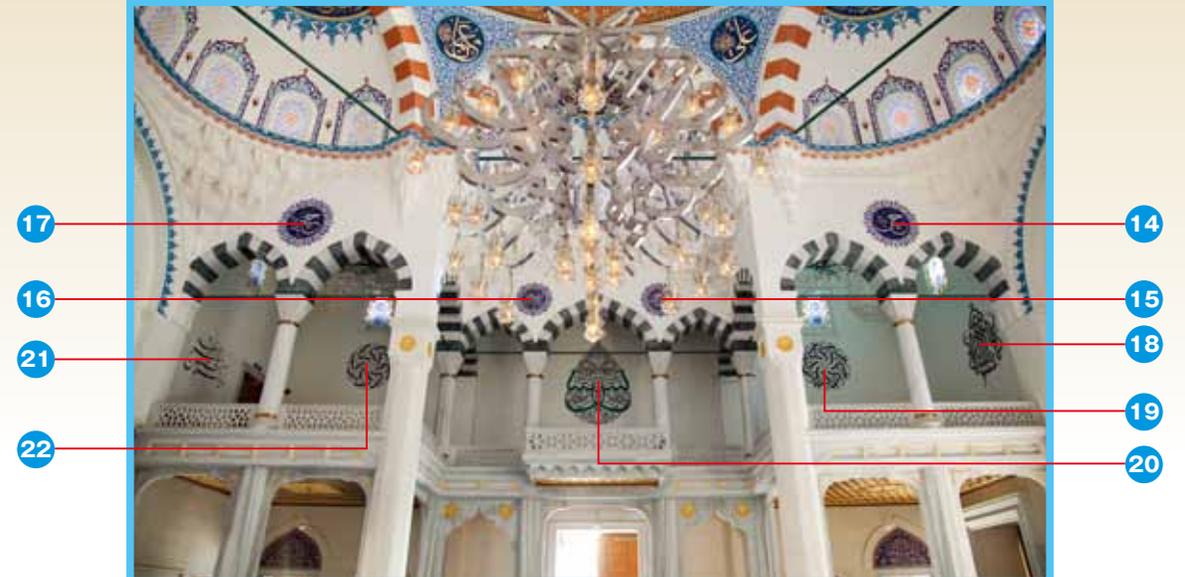
10 ウマル

11 アブー・バクル

12 ウスマーン

13 アリ

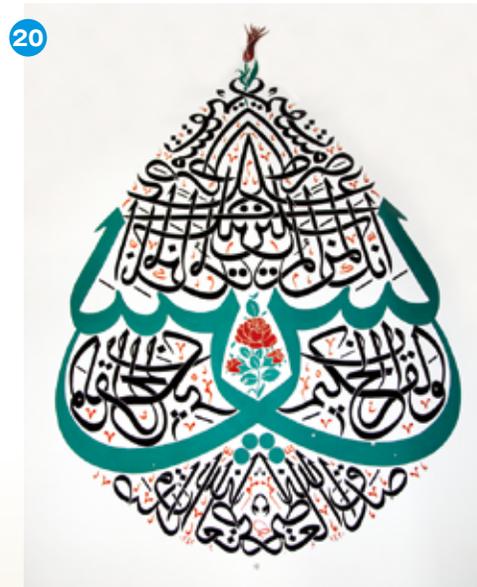
2階礼拝堂内部(後方)のカリグラフィ



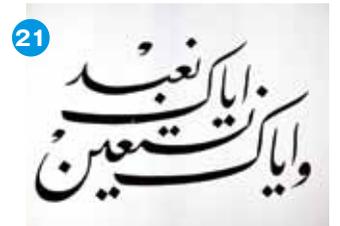
18 慈愛あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。



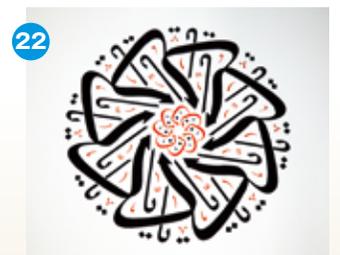
19 愛情者よ(人間を愛し、人間に愛される者)。



20 「ヤー、スィーン。賢明なクルアーンにかけて。本当に、あなたは使徒たちのひとりであり、まっすぐな道の上にある(クルアーン 36章1～4節)。偉大なるアッラーは真実を語られた。



21 「私たちはあなたに[のみ]仕え、またあなたに[のみ]助けを求めます(クルアーン 1章5節)」。



22 主宰者よ、低減者よ(人間の地位や力を低減させる者)、裁定者よ。



14 ハサン(預言者ムハンマドの孫)



15 ビラール・ハバシー(最初のムアッズィン)

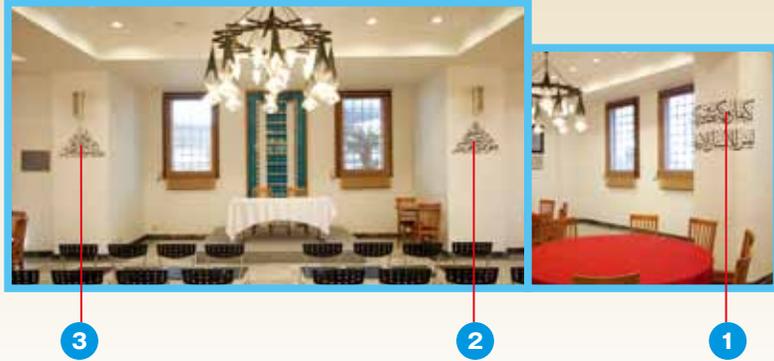


16 イブン・マクトゥーム(ムアッズィン)



17 フサイン(預言者の孫)

1階多目的ホール(正面と右)のカリグラフィ



1 礼拝、善行、祈禱。
「人間は、ただ自分が努力したことだけを得る(クルアーン53章39節)」。



2 「あなたがたの守護者であるアッラーにしっかりとすがりなさい。何とすぐれた守護者だろうか、何とすぐれた援助者だろうか(クルアーン22章78節)」。



3 「容赦しなさい。親切を勧め、無知な者から距離を置きなさい(クルアーン7章199節)」。

1階多目的ホール入口のカリグラフィ

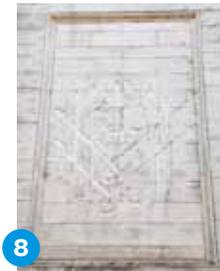
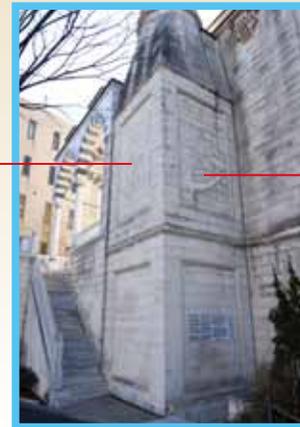


4 知識ある者こそもっとも尊い地位にある。

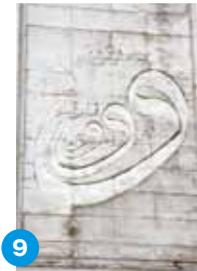


5 今日を昨日と同じように過ごす進歩のない人は損をしている。

ミナレット(尖塔)下の壁面のカリグラフィ

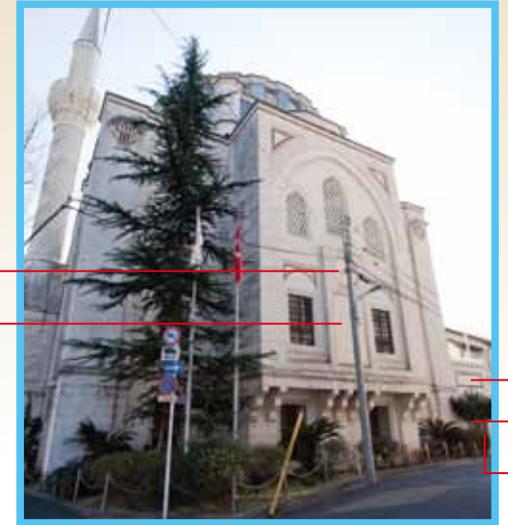


8 アッラー以外に信仰に値する神はなし。



9 「威信とはアッラーとその使徒、そして信仰者たちにあるもの。しかし偽善者はそのことを知らない(クルアーン63章8節)」。

建物側面のカリグラフィ



10 慈愛あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。



12 「(番をする者たちが言う、)あなたがたは純良であった。それゆえここに、永遠に入っていない(クルアーン39章73節)」。

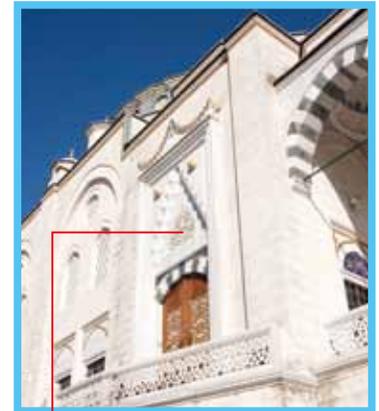


13 アッラーは貴いクルアーンの中でおおせられた、



14 「[平安あれ]との、慈悲深い主からの御言葉も(クルアーン36章58節)」。

建物裏側のカリグラフィ



15 慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1階トルコ民家の応接間のカリグラフィ



6 愛の持ち主よ、入りなさい、タウヒード(神の唯一性)の花畑へ。花のように美しく恋しい御方(アッラー)を求める者よ、入りなさい、タウヒードの花畑へ。



7 アッラー以外に心を許すな、アッラーはお助けください。かの御方以外のものへの愛を心から消し、入りなさい、タウヒードの花畑へ。

アクセス
ACCESS

東京ジャーミイ案内図



交通機関と駅からの道順

- 新宿から小田急線代々木上原駅下車、井の頭通りに出て小田急線の高架下を通り徒歩5分
- 渋谷から地下鉄半蔵門線（銀座線）表参道駅乗り換え千代田線で代々木上原駅下車、井の頭通りに出て小田急線の高架下を通り徒歩5分



〒151-0065 東京都渋谷区大山町1-19
TEL.03-5790-0760 FAX.03-5790-7822
<http://tokyocamii.org> info@tokyocamii.org

●見学のご案内

東京ジャーミイ・ディヤナトトルコ文化センターは朝10時から夕方6時まで、一般の見学者の皆様にも無料で開かれています。

定価200円